



令和8年度の大豆栽培の ポイントについて

甲賀農業農村振興事務所

令和8年度の大豆栽培のポイント

大豆は“ 初期の生育不良 ” が生育の後半まで影響します

基本技術の励行で堅実な大豆栽培を！

【基本技術】

- ① 排水対策の徹底、酸度矯正でほ場を準備
- ② 適期播種の実施
- ③ 種子消毒と雑草防除の徹底
- ④ 遅れないように早めに中耕培土
- ⑤ 発生に応じた病害虫の適期防除

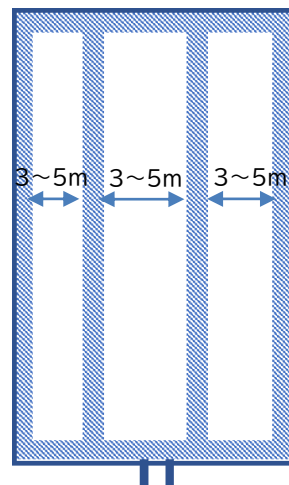
ほ場準備

排水対策 **《 重要 》**

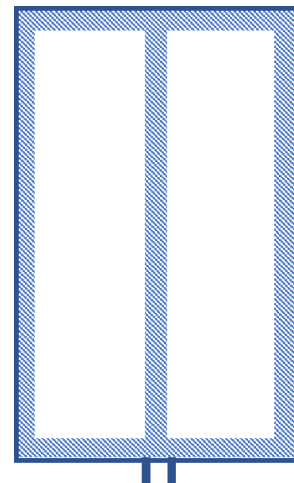
麦跡栽培では、麦作の排水溝を点検し、必ず排水を良好にする
排水溝は、ほ場の乾湿に合わせて追加で設置(うね幅 3m ~ 5m)

- ▶ 排水対策が不十分だと、
湿害 や **雑草の繁茂**、
作業の遅れ等を引き起こし、
生育不良につながる

排水性の悪いほ場



排水性の良いほ場



排水確認チェックリスト

排水溝の点検と修繕を行い、表面排水を促しましょう！

□ 額縁明渠は崩れていないか



□ つなぎ目はしっかり繋がっているか

※特に堀はじめや堀終わりの部分、四隅



□ 尻水戸の前を掘り忘れていないか



□ 止水板の取り忘れはないか



播種作業等で崩れた土も、スコップなどで上げて水の通り道を確認してください

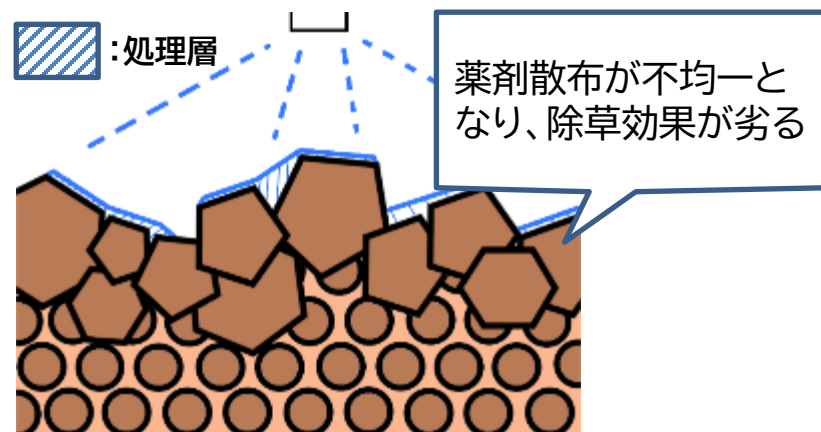
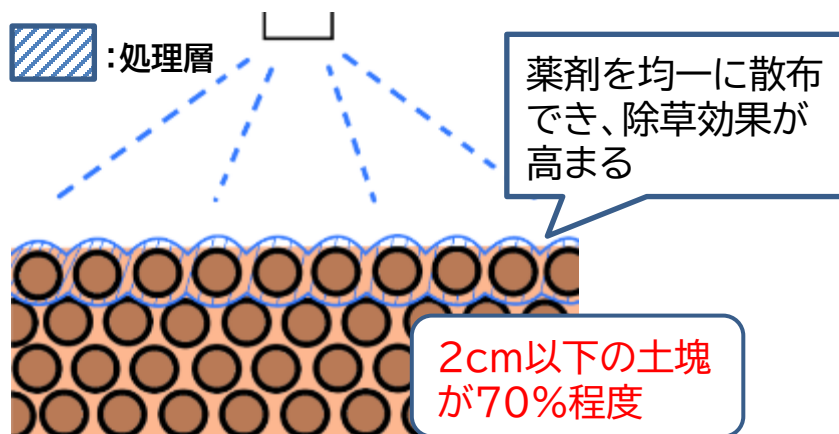
ほ場準備

土壤改良資材の散布

大豆は酸性土壤に弱いため、粒状ハレー28を
10aあたり100kg 散布

耕起・砕土

土塊を細かくすることで、除草剤の処理層が
しっかり形成され、除草効果が高まる。



播種

大豆は **播種時期の影響** が大きい

早播きすると…

倒伏 や **青立ち症状** が
発生しやすくなる



播き遅れると…

生育量が不足し、**収量低下**
や **雑草の増加** に繋がる



天気予報を参考に適期を逃さず、播き遅れない！

■播種適期：6月25日～7月15日

■播種量：3～4kg / 10a

※播き遅れた場合は播種量を1kg/10a増やしましょう！

種子消毒(紫斑病及び鳥害予防対策)

クルーザーMAXXを

乾燥種子1kgに対して8mL塗沫

薬剤名	作物名	適用病害虫	使用方法	使用液量
クルーザー MAXX	だいず	アブラムシ類、タネバエ、ネキリムシ類、フタスジヒメハムシ、莖疫病、リゾクトニア根腐病、苗立枯病、紫斑病、黒根腐病、白絹病	塗沫処理	乾燥種子 1kg当り 8mL

種子消毒を行い

- ・安定した苗立ちと初期生育を確保
- ・生育初期の病害虫防除を徹底

雑草対策 : 播種前～播種直後

雑草防除のポイント①

雑草よりも先に大豆の生育を確保

大豆が先に大きくなれば、日光を遮り雑草にとって生育しにくい環境となる



日光が当たらず、雑草が育ちにくい

■播種前の雑草対策

麦収穫後から大豆播種までに雑草が多い場合は、ラウンドアップマックスロードなどを散布し、あらかじめ枯らす

■土壌処理剤

ラクサー(乳剤・粒剤)またはトレファノサイド(乳剤・粒剤2.5)をは種直後から出芽前(雑草発生前)に、ほ場全体に均一に散布

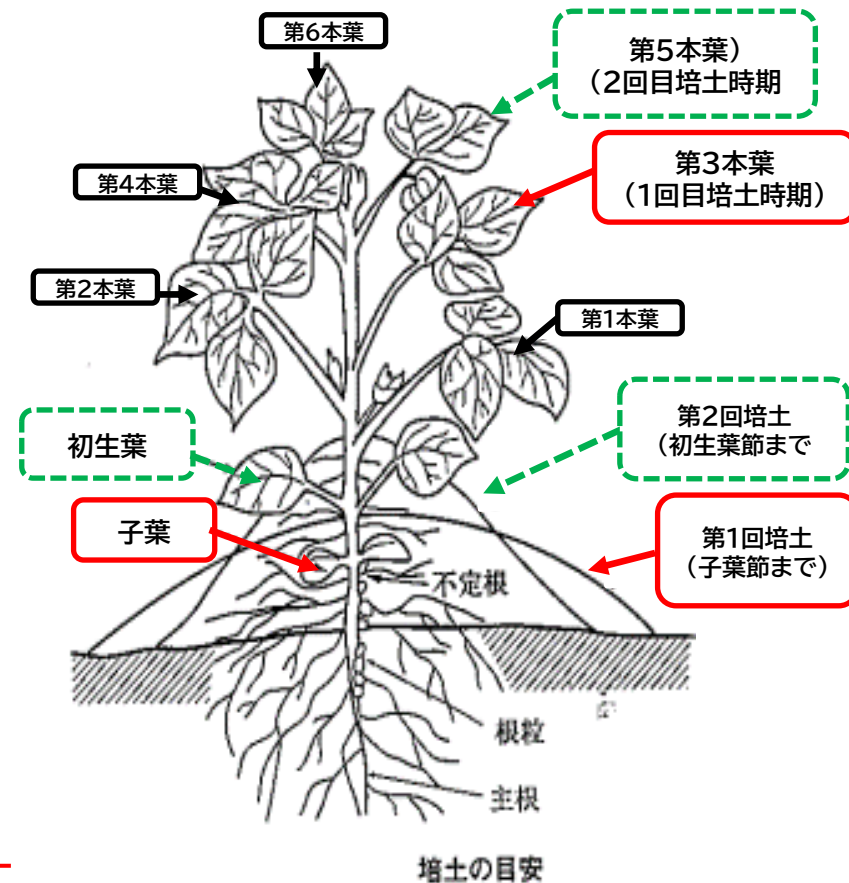
雑草対策 : 中耕培土

- 雑草の発生に応じて遅れないよう早めに実施。
ほ場条件により時期、回数を選択。

- 基本は次のとおり。

1回目…7月下旬に本葉3葉期に
子葉節の上まで培土
(播種後20日頃)

2回目…8月上旬に本葉5葉期に初
生葉節の上まで培土
(播種後30日頃)



※注意

作業が遅れると根を傷つけ逆効果
となってしまうため開花1週間前までに
作業を終わめしょう

雑草対策 : 雑草に対応した剤の選択

雑草防除のポイント②

除草剤によって、効果が高いと言われている雑草の草種や葉齢が異なるので、優先雑草を確認し薬剤選定しましょう。

【注意】農薬を使う前には必ず農薬のラベルを確認し、正しく使用してください

(例) 大豆バサグランの草種別効果

よく効く！



アメリカセンダングサ

タデ類

マルバルコウ

イヌホオズキ

ホソアオゲイトウ

ヒロハフウリンホオズキ

効きにくい...

ヒユ類、ホオズキ類によく効く
アタックショットが供給停止

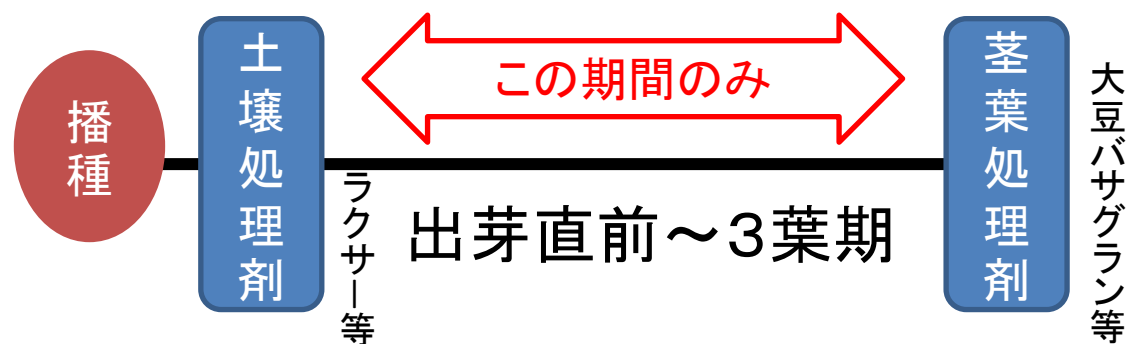


雑草対策 :特にヒユ類やホオズキ類が多いほ場

ホソアオゲイトウなどのヒユ類やヒロハフウリンホオズキなどのホオズキ類、イネ科雑草が多いほ場は、**土壌処理剤にリニユロンを含むもの**(ラクサー粒剤・乳剤等)、**大豆出芽直前から3葉期までに**パワーガイザー液剤を散布

○パワーガイザー液剤とは？

- ・**ホオズキ類やヒユ類、イネ科雑草**に効果が高い
- ・**帰化アサガオのツル化を抑制**
- ・**使用時期が限られている。**



出芽直前
～
3葉期
までの期間を逃さないように注意！

雑草紹介①

リニュロンを含む土壌処理剤
大豆出芽直前～3葉期までに
パワーガイザー液剤の散布

○イヌホオズキ類

【特徴】

- ・出芽:4～7月 花期:8～10月
- ・寒さに強く降霜期まで枯れない
- ・ソラニンを含む有毒植物
- ・黒く熟した果実が収穫物に混入し、汚損粒の原因となる。



【果実・種子】

- ・8,000個以上/株の種子生産量があるとのデータも…
- ・2年間水稲作付後の転換畑でも発生がみられる



雑草紹介②

リニュロンを含む土壌処理剤
大豆出芽直前～3葉期までに
パワーガイザー液剤の散布

○ヒロハフウリンホオズキ

【特徴】

- ・出芽:5～8月 花期:7～10月
- ・実は袋に包まれ、中に果実がある。
- ・寒さに強く降霜期まで枯れない。
- ・茎葉の水分含有率が高い。
- ・汚粒の原因や収穫作業の障害に





ホオズキ類
(ホソバフウリンホオズキ)

雑草紹介③

大豆2葉期～開花期までに
大豆バサグラン液剤の散布

○アメリカセンダングサ

【特徴】

- ・草丈は50～150cmになる。
- ・秋に花を咲かせ、黄色の頭花をつける。
- ・大型になると収穫作業が困難に

【果実・種子】

- ・果実は扁平であり、先端に2本の棘がある。





雑草紹介④

大豆2葉期～開花期までに
大豆バサグラン液剤の散布

○オオイヌタデ

【特徴】

- ・茎先に花穂を出し、淡紅色～白色の小さな花を多数つける。

【果実・種子】

- ・瘦果は扁平な円形で黒褐色。





(C) KIMURA SATORU

雑草紹介⑤

！難防除雑草！
大豆が大きくなるまで
「つる」を作らせな
いように体系防除

○マルバルコウ (帰化アサガオ類のひとつ)

【特徴】

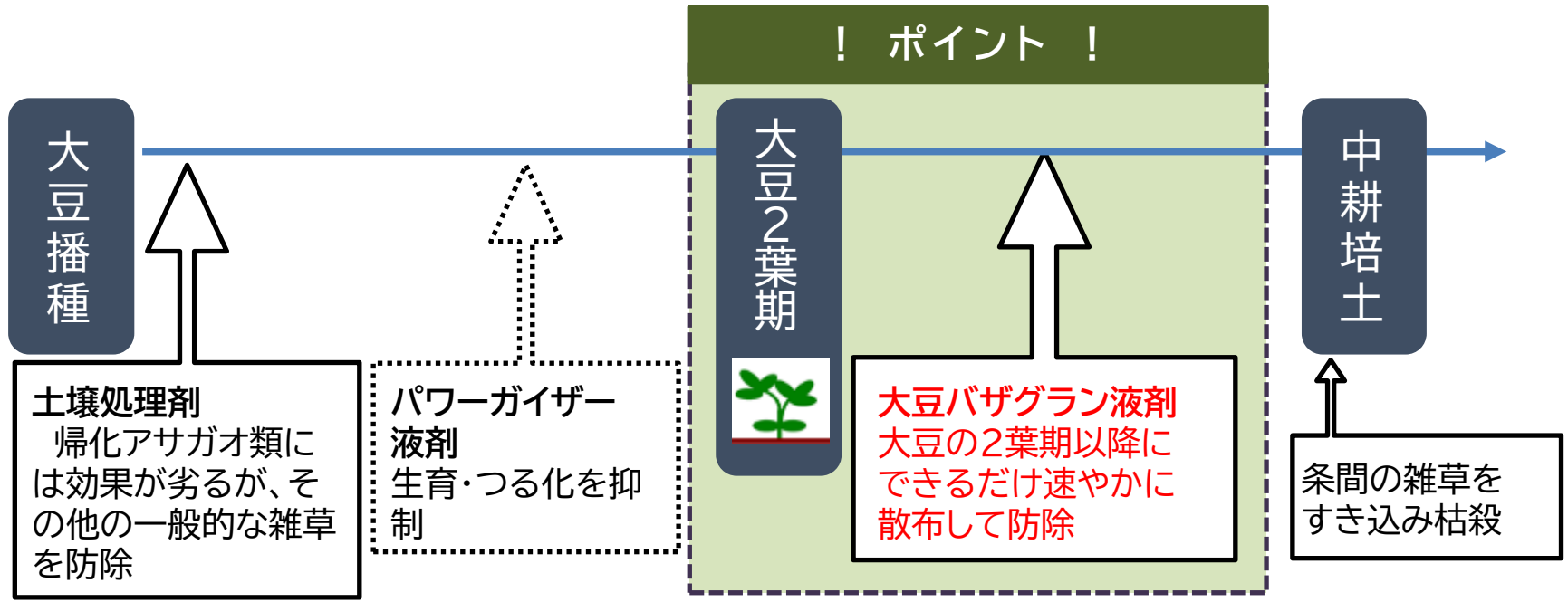
- ・出芽後2～4週間で「つる」になる
- ・つるが絡みつき、収穫作業の
阻害や生育阻害の原因となる
- ・つるが出てくると「大豆バサグラン」
などの除草剤の効果が落ちる



「つる」がでる前に防除！



帰化アサガオ類の防除のポイント



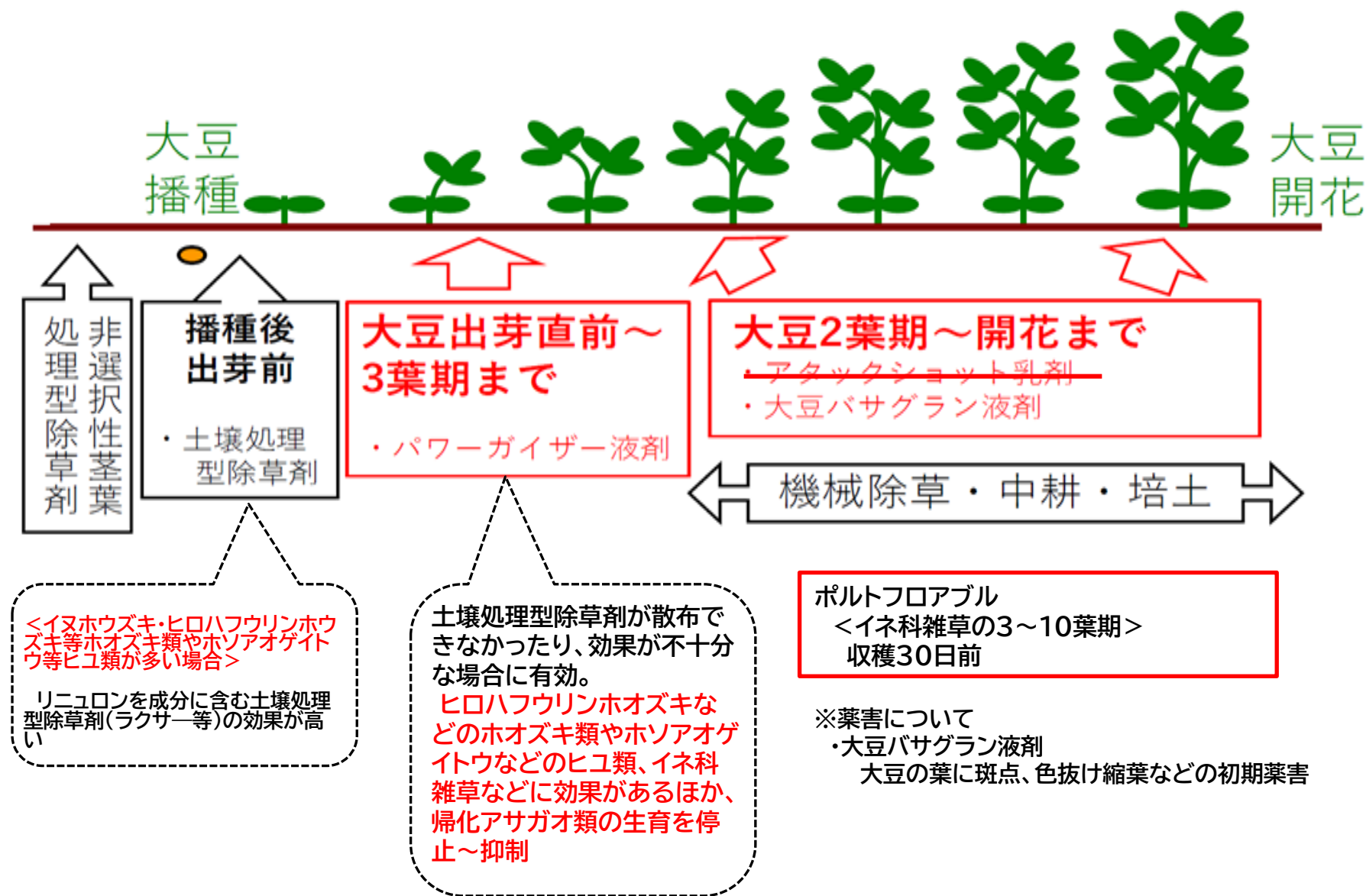
除草体系の例：(参考)農研機構

土壌処理剤や茎葉処理剤、中耕培土を組み合わせ
「つる」が出るまでに防除！



写真はマメアサガオの子葉

<参考> 除草剤体系



除草剤は草種や発生状況にあわせて選択を！

病害虫防除

基本の防除体系

防除時期：

8月下旬～10月上旬
(開花期～子実肥大期)

■病害虫の発生状況に応じて
2～3回実施



夏季の高温により、病害虫の発生時期が早く、発生期間も長期化しています。

注意報や警報発表時、ほ場内での発生が多い場合は、追加防除をおすすめします。

紫斑病

開花後30日頃を重点に、
前後の期間が防除適期



ハスモンヨトウ

老齢になるほど、殺虫剤が効きにくくなり
ます

白変葉に群がっている(若齢)時期にしっ
かりと防除しましょう

写真のような白変葉が
増え始める頃に防除を
行いましょう



若齢



老齢



吸実性カメムシ類

莢が柔らかい時期(若莢期)の被害

莢が落ちる場合が多く、**青立ち症状**の原因になる

莢が膨らんでくる時期(子実肥大期)の被害

形が大きく変形し、**被害粒**になる

イチモンジカメムシ



ホソハリカメムシ



ミナミアオカメムシ



< 水稻収穫後に飛来するカメムシに注意>

- ・夏季の高温でカメムシの発生期間が長期化
- ・特に、水稻収穫後の9月下旬～10月上旬に「ミナミアオカメムシ」が飛来



大豆の収量・品質低下

昨年度発生が多かったほ場では重点的な対策を



基本技術を徹底し、増収を目指しましょう！

除草剤登録内容一覧

■ホオズキ類、ヒユ科（ケイトウなど）、イネ科雑草に効果が高い

パワーガイザー液剤				
対象雑草	使用量・希釈倍率 (括弧内使用液量)	使用回数上限	使用回数	使用方法
一年生雑草	200～ 300mL/10a (100L/10a)	出芽直前～3葉期まで (雑草発生始期～2葉期)	1回	雑草茎葉散布 又は全面土壌散布

■タデ科雑草、アメリカセンダングサに効果が高い

大豆バサグラン液剤				
対象雑草	使用量・希釈倍率 (括弧内使用液量)	使用回数上限	使用回数	使用方法
一年生雑草 (イネ科を除く)	100～ 150mL/10a (100L/10a)	本葉2葉期～開花前 (雑草の6葉期まで) 但し、収穫45日前まで	1回	雑草茎葉散布 または全面散布

病害虫防除(殺虫殺菌剤登録内容)

[防除の案]

散布時期	対象病害虫	薬剤名	使用量・希釈倍率 (括弧内使用液量)	使用回数 上限
開花期頃 (8月下旬)	フタジヒメハムシ カメムシ類 ハスモンヨトウ	トレボン粉剤DL ※	4kg/10a	2
		トレボン乳剤 ※	1000倍 (100～300L/10a)	2
開花20日後頃 (9月上旬)	紫斑病 カメムシ類 ハスモンヨトウ	トライトレボン粉剤DL ※	3～4kg/10a	2
		アミスタートレボンSE ※	1000倍(100～400L/10a) 無人航空機:8倍(800mL/10a)	2
若莢期～ 子実肥大期 (9月中旬)	ハスモンヨトウ カメムシ類	ミネクトエクストラSC	10000～12000倍(100～300L/10a) 無人航空機:40～80倍(0.8L/10a) 80～160倍(1.6L/10a)	2

[注意報や警報発表時、多発時]

散布時期	対象病害虫	薬剤名	使用量・希釈倍率 (括弧内使用液量)	使用回数 上限
9月上旬～ 10月上旬	紫斑病	トライフロアブル	1000倍 (100～300L/10a) 無人航空機:8倍(0.8L/10a) 16倍(1.6L/10a)	2
		ファンタジスタフロアブル	1000～2000倍 (100～300L/10a) 無人航空機:16倍(0.8L/10a)	3
8月下旬～ 9月中旬	ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	4000倍 (100～300L/10a) 無人航空機:16～32倍 (0.8L/10a)	2
		ブロフレアSC	2000～4000倍 (100～300L/10a) 無人航空機:16～32倍 (0.8～1.6L/10a)	3
9月上旬～ 10月上旬	カメムシ類	キラップ粉剤DL	3kg/10a	2
		キラップフロアブル	2000倍(100～300L/10a)	2

※イトファンプ ロックス(トレボン)を含む剤の散布は、合計で2回以内まで
※農薬登録内容は原則令和7年10月1日現在